

# 展示における試み

## —指定文化財展「はにわ行進曲」を事例として—

阿部 知己

### 1 はじめに

平成 29 年 9 月 30 日（土）～ 11 月 26 日（日）、計 50 日間の日程で、まほろん特別展示室において指定文化財展「はにわ行進曲」（以下、企画展という）を開催した。今回の企画展は、福島県内出土の埴輪を対象としたものであったことから、幅広い年齢層が埴輪に親しみ、楽しんでいただけるものになりたいという思いを第一として企画にあたった。

ここでは、企画展を組み立てていくにあたり、見学者の関心を引き起こし、見て楽しいと感じられるような展示内容とするよう試行錯誤した経緯と、その結果について報告する。

### 2 展示の構成

企画展は、以下の 5 つのコーナーから構成した。

1. 「ドグウじゃないのよハニワは」
2. 「ハニワもあるのよ、ふくしま」
3. 「ハニワもいろいろ」
4. 「思い出すわね、あの音色」
5. 「忘れていないよ みんなの顔」

最初のコーナーでは、よく混同されやすい考古資料として、福島県内出土の縄文時代の土偶と、古墳時代の埴輪を比較展示し、次のコーナーでは、過去 10 年の間に福島県内で出土した埴輪資料を紹介した。3～5 では、埴輪の種類を明示したほか、泉崎村原山 1 号墳出土の琴を弾く人物埴輪の出土例から、古墳時代にもあった楽器、服装、アクセサリー、髪形、化粧などに注目した展示とした。さらに、5 では各地の埴輪系ゆるキャラのイラストを集め、埴輪について学習した子どもたち（森の塾生）の様子を併せて紹介した。

### 3 展示に向けての要件

企画展及びの関連行事は、以下の 9 つの要件をうまく盛り込むよう心掛け取り組んだ。

- ①：福島県内（浜・中通り、会津の 3 地方）から出土した埴輪（国・県・市町村指定



図 1 企画展「はにわ行進曲」ポスター

展示における試み

—指定文化財展「はにわ行進曲」を事例として—

重要文化財を含む) を展示する。

- ②: 福島県内出土埴輪と、他地域出土の埴輪の写真などを対比させて展示する。
- ③: 展示タイトル「はにわ行進曲」と、泉崎村原山1号墳出土の「琴を弾く人物埴輪」に関連させた音楽や楽器についての内容を展示に盛り込む。
- ④: 開催期間中、音楽・楽器に関連した行事、講演会をあわせて実施する。
- ⑤: 学芸員による詳しい展示解説、パネル中での難しい用語の使用は極力少なくする。
- ⑥: 子供たちによる埴輪解説会を実施する。
- ⑦: 県内外の埴輪系ゆるキャラのイラストを集める。
- ⑧: 企画展に関連したグッズを販売(配布)する。
- ⑨: 埴輪等展示品の撮影を許可する。

①・②については、福島県内、浜・中通り、会津地方の3地方から出土した埴輪から、それぞれ資料を選び出した。浜通り地方では相馬市、いわき市の2市、中通り地方は大玉村・本宮市のほか計7市町村、そして会津地方は会津坂下町の、合計で県内10市町村、15箇所の古墳・遺跡から、復元されて概ね全体形状が分かりやすいものを選出した。さらに、最近注目された埴輪資料や写真なども交えながら展示した。

③・④については、音楽(楽器)の雰囲気を感じさせる内容とするよう検討し、古墳時代にあったとされる楽器といっても、見学者にはイメージしづらいことから、復元した楽器(琴、あずさ弓など)を実際に弾ける展示のほか、和太鼓のミニライブ、復元琴の演奏を聴ける講演会を併せて企画した(図3-d、図4-e・f)。また、展示室内に弦楽器主体の器楽曲をながし、

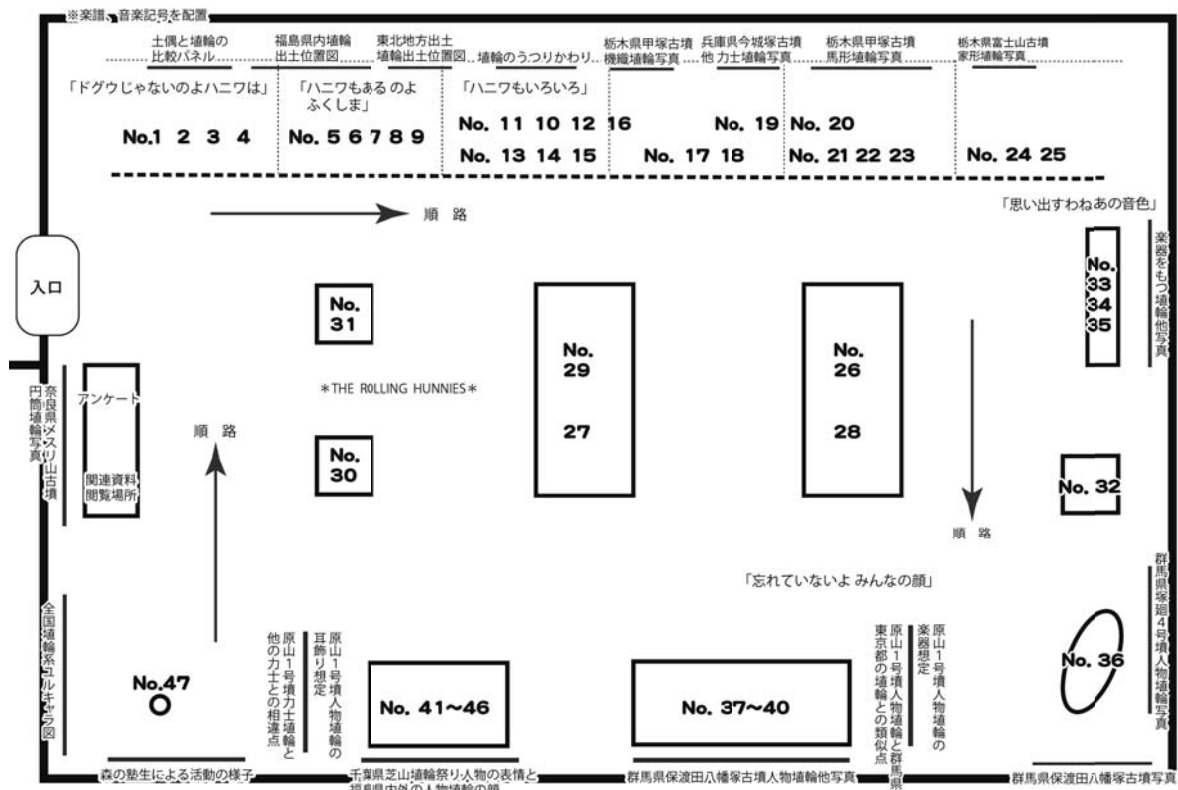


図2 展示配置

表1 展示品一覧

No.	所在地	遺跡名	資料名	点数	所蔵(保管先機関名)	備考
ドグウじゃないのよ ハニワは						
1	広野町	上田郷VI遺跡	土偶(縄文時代早期末~前期初頭)	1	福島県文化財センター白河館	
2	郡山市	荒小路遺跡	土偶(縄文時代後期)	1	福島県文化財センター白河館	
3	三春町	柴原A遺跡	土偶(縄文時代後期)	1	福島県文化財センター白河館	
4	相馬市	丸塚古墳	人物埴輪(丸い帽子をかぶった男性)	1	相馬市教育委員会	市指定重要文化財
ハニワもあるのよ ふくしま						
5	いわき市	神谷作101号墳	円筒埴輪片	1	いわき市教育委員会	
6	本宮市	庚申壇古墳	円筒埴輪片	1	福島大学	
7	大玉村	金山古墳	円筒埴輪片	5	大玉村教育委員会	
8	須賀川市	団子山古墳	円筒埴輪片	4	須賀川市教育委員会	
9	白河市	下総塚古墳	円筒埴輪片	4	白河市教育委員会	
ハニワもいろいろ						
10	大玉村	谷地1号墳	円筒埴輪	1	大玉村教育委員会	
11	本宮市	天王壇古墳	朝顔形埴輪	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
12	本宮市	天王壇古墳	円筒埴輪	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
13	白河市	大塚遺跡	円筒埴輪(円筒埴輪棺)	1	白河市教育委員会	
14	会津坂下町	経塚1号墳	円筒埴輪	1	会津坂下町教育委員会	
15	泉崎村	原山1号墳	円筒埴輪	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
16	いわき市	神谷作106号墳	円筒埴輪片	1	いわき市教育委員会	
17	いわき市	牛転1号墳	人物埴輪頭部片(男性)	1	いわき市教育委員会	
18	須賀川市	塚畑古墳	人物埴輪片(冠をかぶった男性)	3	須賀川市教育委員会	
19	泉崎村	原山1号墳	人物埴輪(力士)	1	福島県立博物館	複製。原資料:県指定重要文化財
20	本宮市	天王壇古墳	トリ	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
21	本宮市	天王壇古墳	イノシシの破片	2	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
22	本宮市	天王壇古墳	ウマ	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
23	会津坂下町	経塚1号墳	ウマ(乗馬する人物付き)	1	会津坂下町教育委員会	
24	本宮市	天王壇古墳	笠	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
25	矢吹町	鬼穴1号墳	家(屋根部破片)	1	矢吹町教育委員会	
思い出すわね、あの音色						
26	いわき市	神谷作101号墳	人物埴輪(鈴付き冠をかぶった男性)	1	いわき市教育委員会	複製。原資料:国指定重要文化財
27	いわき市	神谷作101号墳	人物埴輪(鈴鎖を腰につけた女性)	1	いわき市教育委員会	複製。原資料:国指定重要文化財
28	泉崎村	原山1号墳	人物埴輪(冠をかぶった男性)	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
29	泉崎村	原山1号墳	人物埴輪(琴を弾く男性)	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
30	泉崎村	原山1号墳	人物埴輪(女性)	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
31	相馬市	丸塚古墳	人物埴輪(器をもった女性)	1	相馬市教育委員会	市指定重要文化財
32	本宮市	(伝)愛宕山古墳	五鈴鏡	1	本宮市立歴史民俗資料館	
33	-	-	復元品:あずさ弓	1	福島県文化財センター白河館	
34	-	-	復元品:琴	1	福島県文化財センター白河館	
35	-	-	復元品:四ツ竹	1	福島県文化財センター白河館	
36	いわき市	中田横穴墓	復元品:馬具	1式	福島県文化財センター白河館	
忘れていないよ みんなの顔						
37	白河市	笹内古墳群	復元品:刀	1	福島県文化財センター白河館	
38	矢吹町	上宮崎B15号墳	直刀	1	福島県文化財センター白河館	
39	矢吹町	弘法山横穴墓群	直刀	3	福島県文化財センター白河館	
40	玉川村	江平8号墳	直刀	1	福島県文化財センター白河館	
41	矢吹町	弘法山横穴墓群	勾玉・ガラス玉・琥珀玉	1式	福島県文化財センター白河館	
42	白河市	笹内古墳群	銅製釧	1	福島県文化財センター白河館	
43	白河市	笹内古墳群	復元品:釧	1	福島県文化財センター白河館	
44	会津若松市	駒板新田横穴墓群	耳飾り	2	福島県文化財センター白河館	
45	白河市	笹内古墳群	復元品:耳飾り	2	福島県文化財センター白河館	
46	-	-	復元品:髪形・被り物	3	福島県文化財センター白河館	
47	-	-	復元品:埴輪風衣装・被り物	1式	福島県文化財センター白河館	

展示室内の壁に五線譜などを配置したり、原山1号墳出土「琴を弾く男性埴輪」のほか、いわき市神谷作101号墳出土の鳴り物を身につけた男女の埴輪、ダンサーに見立てた2体の女性埴輪などを加え計6人のバンド(バンド名「THE ROLLING HUNNIES」\*HUNNIESは、つづりを故意に間違え、埴輪の複数形として表記)を結成させるなど、遊び心も加え、楽しく観覧できるよう工夫した(図3-b・e)。

⑤については、企画展において、どうしても多用してしまいがちとなる専門用語の使用を最

小限におさえた。キャプションに盛り込む内容も最小限とし、展示品名のほか、出土遺跡名、出土市町村名（福島県地図付き）、そして年代を、平易な言葉で明示した。さらに、写真（文字）パネル内の文字には、ところどころにユーモラスな表現を織り込み、あまり堅苦しくならないよう心掛けた。一部のキャプションには、子どもの目線で埴輪を見たときの第1印象のコメントを手書きしたものを、掲示した。作成には、埴輪の面白さと文化財の大切さを伝える活動を体験するため平成29年度に募集し、集まった「まほろん森の塾」の5名の塾生（小学5・6年、中学1年生）が携わった（図3-g、図4-a・c・d）。また、塾生には、埴輪について勉強した成果をクイズ形式で解説する機会を作り、見学者の前で披露した（図4-b・h）。

⑦については、埴輪への親しみやすさ、愛くるしさを再認識できるよう構成した。埴輪系ゆるキャラについては、全国の市町村または資料館・博物館などの公認キャラクターに限定し、北は泉崎村の「いずみちゃん」、南は宮崎県高等学校文化連盟の「ハニア」まで、1都1府6県から合計13体を紹介した。埴輪のなかでも人物埴輪（武人埴輪や、おどる埴輪）については、アニメーションのキャラクターとして採用され、現在も2次元の世界の中で取り上げられ、埴輪に馴れ親しんでいることに気づいてほしいとの思いがあった。また、11月18・19日に開催した「まほろん大感謝祭」においては、泉崎村の「いずみちゃん」を着ぐるみで登場させ、来館者が埴輪を身近に感じられるような機会を設けた。

⑧については、平易な内容のカラー解説資料（8頁）を、作成し無料配布した。この資料には、埴輪を展示・見学できる資料館なども併記した。さらに、埼玉県本庄市や奈良県のホームページ上で公開している埴輪ペーパークラフトを印刷し、枚数を限定し無償で配布した。ショップにおいては、埴輪を模したサブレを制作し、期間限定で販売した。

#### 4 おわりに

福島県での出土例がそれほど多くない埴輪を材料に、幅広い年代層が理解できる展示を目指した今回の企画展に対するアンケート結果（回答数53名）を報告し、本稿のまとめとする。

回答者の年齢で最も多かったのは、10代で、全体の32%を占めた。10～20代では43.3%という割合となった。また、男女別をみると、回答者の56.6%が女性であり、「埴輪が好き（かわいい・面白い）」（10・20代女性）の回答も寄せられた。また、回答者の90%以上が、企画展の内容・見やすさ、説明の内容・見やすさに対して「満足」または「やや満足」と回答しており、解説を比較的少なくするといった要件や、見て・触れて・聞いて、楽しめるということに配慮したのが、功を奏した結果ではないかと推察している。

一方、展示品の少なさ、解説文字（文）の小ささ（少なさ）、解説資料の不十分さなども指摘されている。幅広い年齢層が、文化財や地域の歴史を楽しみながら、理解するための方策を今後も検討を重ねていきたい。



a 「ドグウじゃないのよ ハニワは」



b 「ハニワもあるのよ ぶくしま」



c 「ハニワもいろいろ」



d 「思い出すわね あの音色」



e 「思い出すわね あの音色」



f 「忘れていないよ みんなの顔」



g 「忘れていないよ みんなの顔」



h 「忘れていないよ みんなの顔」

図3 展示の状況

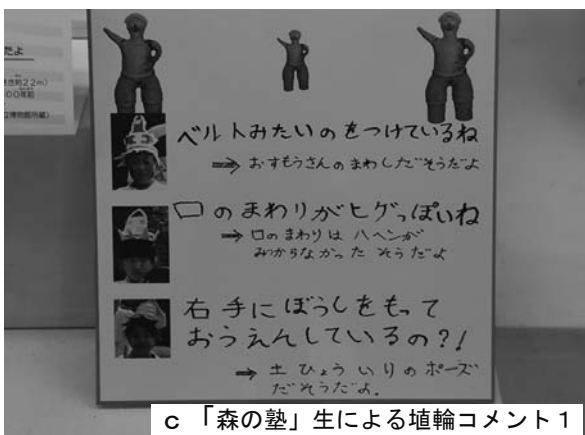
展示における試み  
 —指定文化財展「はにわ行進曲」を事例として—



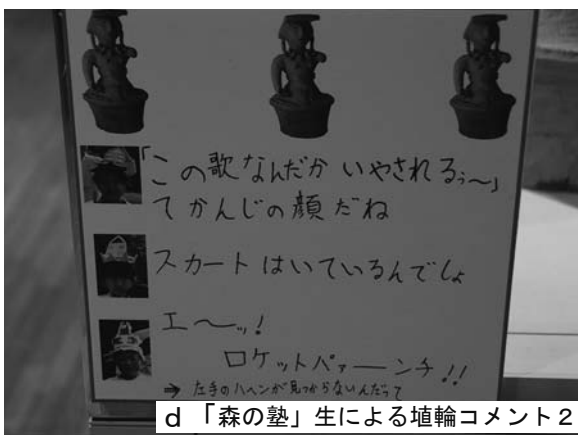
a 「森の塾」の活動



b 「森の塾」生によるはにわ解説会練習風景



c 「森の塾」生による埴輪コメント1



d 「森の塾」生による埴輪コメント2



e 10/8 「音の考古学」 荒山千恵氏 琴演奏



f 10/8 大信こだま太鼓による演奏



g 10/28 「はにわの世界」 若狭 徹氏の講義



h 11/18 まほろん大感謝祭 展示解説会

図4 展示・解説などの様子